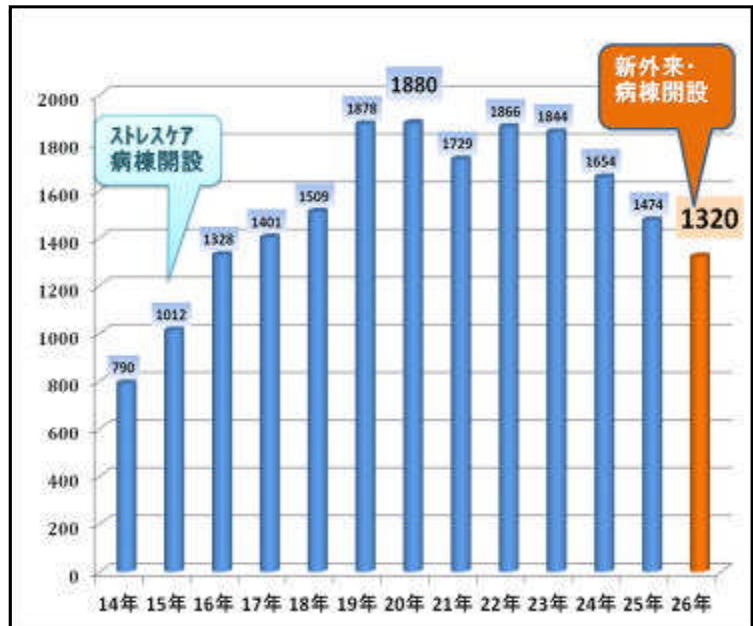


新患統計

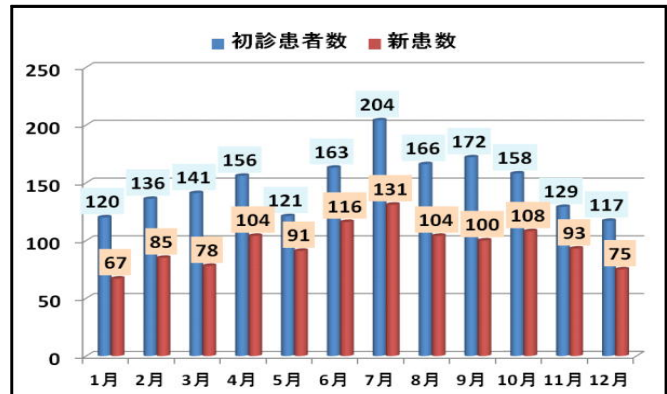
1 年度別新規患者数

平成26年度の新規患者数は1320人で、平成25年の1474人、平成24年の1654人、平成23年の1844人、平成22年の1880人、平成21年の1729人、平成20年の1878人、平成19年の1509人、平成18年の1401人、平成17年の1328人、平成16年の1012人と比べてかなりの減少である。札幌市内の精神科クリニックは増加傾向にあり、また他の精神科医療機関の診療の充実などもあり、新規の外来者数が減っている。新規患者、1年以上未受診者の再来については予約制を導入した。平成26年5月からは新しい外来での診察が開始された。ロビー待合室もゆったりとなり、コンシェルジュの活躍で診察室までの誘導もスムーズになった。かつての混雑緩和が懐かしくなった。



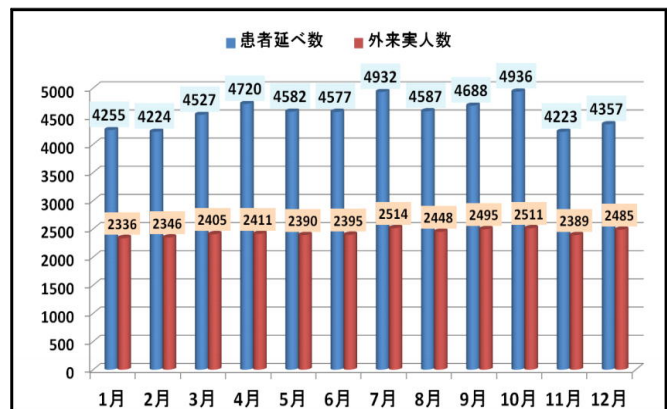
2 月別初診・新規患者数

初診患者が多いのは7月、8月、9月である。例年1月、12月は少ない傾向にある。5月も少なかった。7月は年金の更新申請があるので、初診患者数が増加する。新規患者数（当院に初めての受診者）は毎月100名前後である。年間1200人～1400人くらいになる。外来のコマ数の問題もあり、平成26年度から新規患者さんの受診は予約制とした。



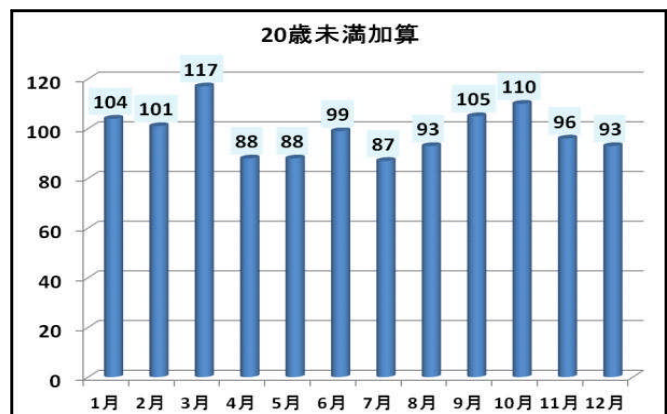
3 月別延患者数、時間外受診者数、実人数

1日あたりの外来者数は約150人である。月別では7月、10月が多い。時間外受診者数は190人であった。スーパー救急算定にあたり、年間200人以上が基準となっているが、若干少なかったが、スーパー救急に準じている数字である。必要な時間外受診は何時でも診療するが、予防医学も大事であると思われる。実人数は2500弱である。



4 20歳未満加算数

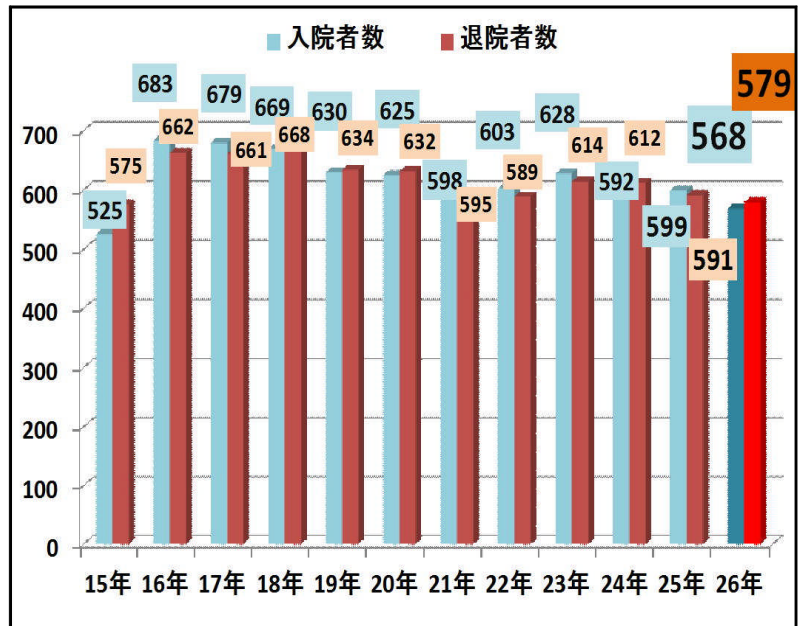
平成26年度は延べ1,181件であった。平成25年度は1,331件と横ばいである。ちなみに、平成20年は2,393件であった。札幌市内の他の病院でも思春期専門外来は増えているので、以前ほどの受診者は少ない。年次とともに変化する算定数である。平成27年度には札幌市で児童思春期のコンシェルジュ事業がはじまる予定である。札幌市北区の中核病院としての役割を担いたい。



入院患者統計

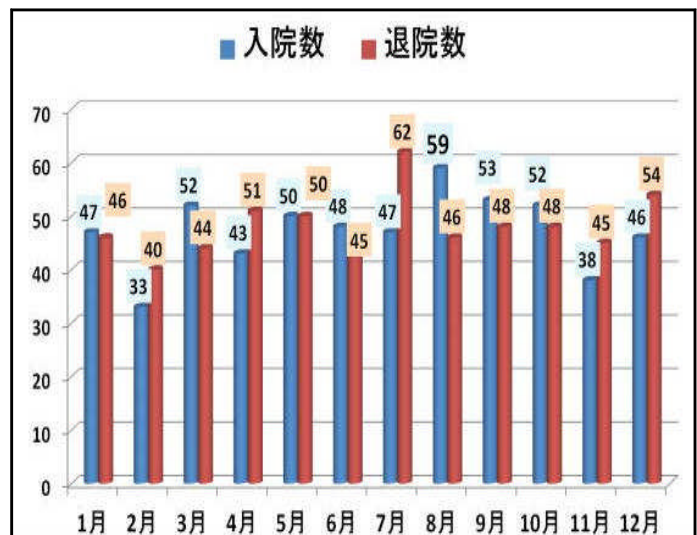
1 年度別入院者・退院者数

グラフには示していないが、平成11年～14年までは入院退院者数は、400人台で推移していた。平成15年にストレスケア病棟がオープンしたには500人を越えた。平成16年度の急性期病棟運用時から入院退院ともに600名を越えた。平成21年から入院が600人割れ、平成26年も568人で、この10年で最も少なかった。退院者数は579人であった。平成16年をピークに減少している。札幌市内には多くの精神科病院があり、急性期患者の入院を積極的に行っているためである。



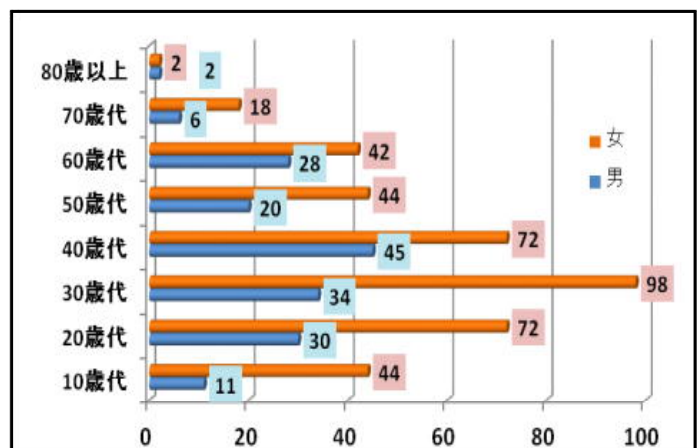
2 月別入院者・退院者数

月別の入院者で最も多いのは3月、8月、9月、10月であった。少ない月は、2月、11月であった。年度による偏りはないようである。退院は7月が最多で62人、12月も54人と多かった。退院は月末に集中することがあり、平成22年4月からの全体ミーティングでのベッドコントロールを行っているが、上手く行かないことが多い。病床稼働率から考えると、月の入院退院者数が同じであることが理想である。患者さんのニーズと病院経営のバランスを上手く考慮しながらベッド調整を考える必要もある。



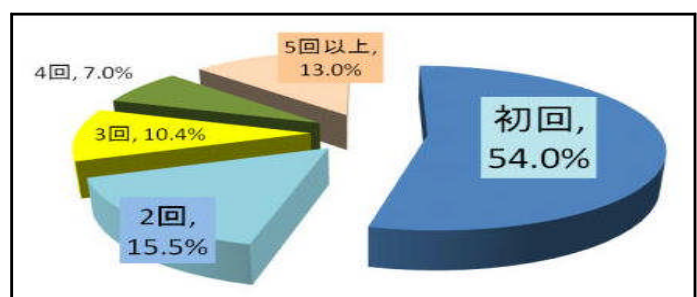
3 性別・年齢別入院者数

性別では前年同様に女性が多く7割を占める。入院者の年齢は12歳から92歳までで平均年齢は40.3歳と前年の39歳よりも年齢が若干上がった。最も多いのは30歳代で、次いで40、20歳代である。20、30歳代で4割を占める。10歳代は55人(9.7%)と1割である。30歳代までで5割、40歳以上65歳未満は4割、65歳以上は1割、75歳以上は12人しかいない。



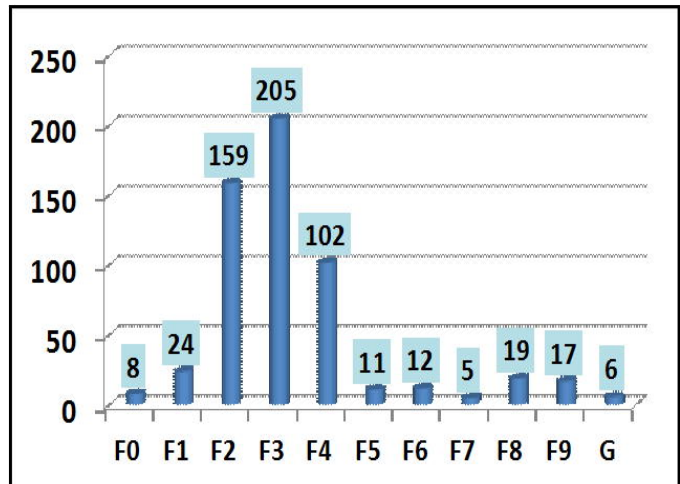
4 入院回数

初回入院が307人(54.0%)である。2回目が88人(15.5%)、3回目が59人(10.4%)であった。5回以上の入院者は74人(13.0%)。新規入院(精神科入院歴が3ヶ月以内でない)は516人(90.8%)で殆どは新規での入院となっている。



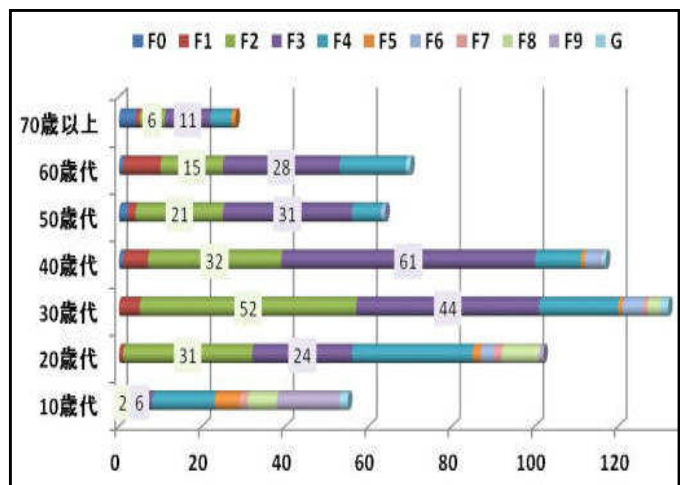
5 入院時診断

最も多いのは F3（気分障害）で 205 人（36.1%）と 4 割弱を占める。次いで F2（統合失調症圏）が 159 人（28.0%）と 3 割弱である。F4（神経症圏）は 102 人で 2 割弱。前年度よりも神経症圏が増えた。F6（パーソナリティ障害）は 12 人（2.1%）で昨年度よりも減少している。F8（発達障害圏）が 19 人（3.3%）と増加傾向である。他 F1（アルコール依存症）は 24 人と前年度よりも減少、摂食障害等の F5（生理的障害）は 11 人（1.9%）と少なかった。



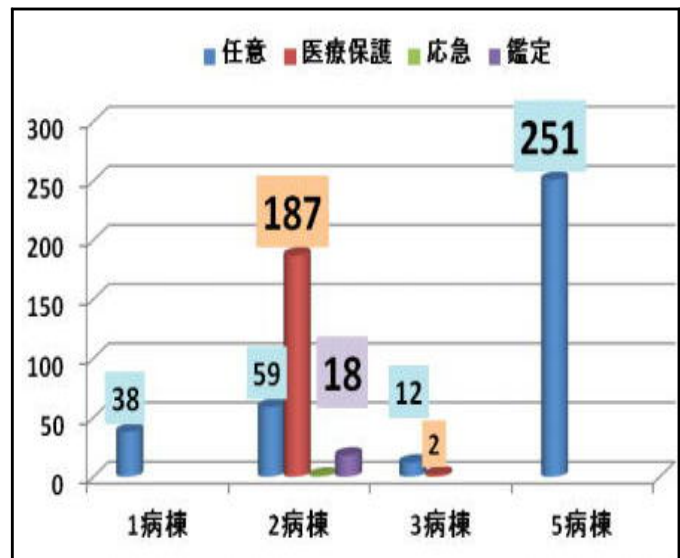
6 年代別診断分布

年代別の診断名の分布を示す。20 歳代から 60 歳代にわたって F3（気分障害）が多い。最も多いのは 40 代の F3 で 61 人、次いで 30 代の F2（統合失調症圏）で 52 人である。F2 は 20 歳代から 60 歳代まで幅広く分布する。F4（神経症圏）は 20 代、30 代に目立つ。30 歳代は F3、F2 の比率が高い。F1（アルコール依存症）は 30-60 代まで幅広い。F8（発達障害）は当然であるが、10、20 代、30 代が多い。F6（パーソナリティ障害）は最近では減少傾向にある。



7 入院形態・入院病棟

任意入院が 360 人（63.4%）と 3 分の 2 で、医療保護入院は 189 人（33.3%）と 3 分の 1 であった。緊急措置、措置入院は皆無、応急入院 1 人であった。札幌市の判断で、措置・応急入院者が制限されているように感じられる。鑑定入院は 18 人と顕著に増加した。このうち医療観察法の鑑定が 2 人であった。4 月から赴任した佐々木竜二診療部長が鑑定を行うことになり、司法精神医学への関与は充実した。入院病棟は 2 病棟が 265 人（46.7%）、5 病棟が 251 人（44.2%）、であった。療養の 1 病棟は 38 人、3 病棟は 14 人を受け入れている。



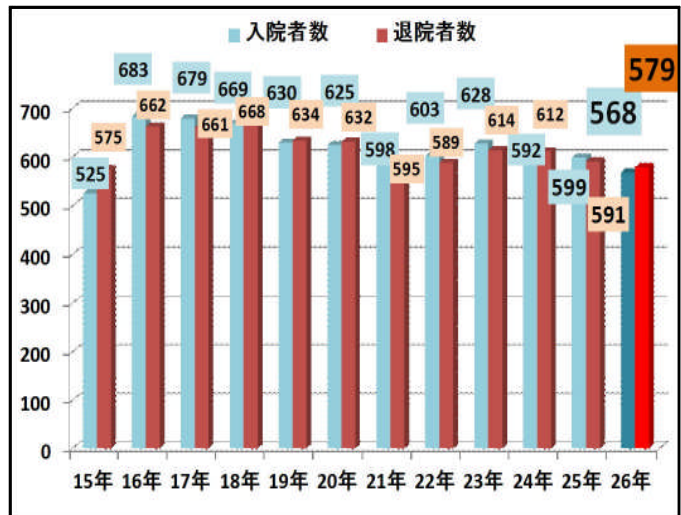
8 紹介元病院・クリニック(敬称略)

568 人の入院のうち 271 人（47.7%）が紹介患者である。平成 26 年度は、こころメンタルクリニックが 14 人と最多であった。次いで、勤医協中央病院、札幌医大病院からの紹介が多かった。札幌地方検察庁から 8 人の鑑定入院を引き受けた。札幌地方裁判所からは 5 人である。南平岸内科クリニック、札幌メンタルクリニック、さっぽろ元町メンタルクリニック、サッポロファクトリーメンタルクリニックが多い。平成 25 年度はさっぽろ駅前クリニックが最多であったが、4 人であった。病診連携を図っているメンタルクリニックからの紹介が多い。精神科クリニックからの紹介が多く、病病・病診連携をはかるためにも紹介患者は可能な限り受入ることになっている。まあ、退院後は紹介元のクリニックに戻るようになっている。

退院患者統計

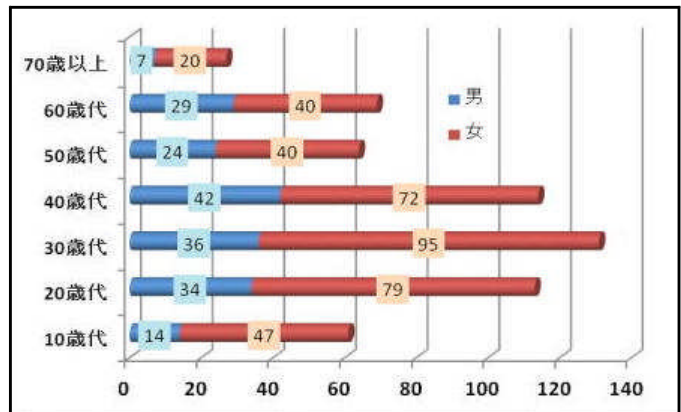
1 年度別退院患者数

年度別の退院者数はここ数年は 600 人前後である。平成 26 年度は 579 人と平成 15 年と同様であった。徐々に退院数は減っているが、退院者数は入院数に相関するので入院数が増えないと退院者数も増えない。長期入院者の退院支援も行っており、退院者の状態、退院先などの詳しい情報を分析する必要がある。当院は新規入院者が多いが、退院後に早期の再入院がないようなサポート体制創りの重要になる。



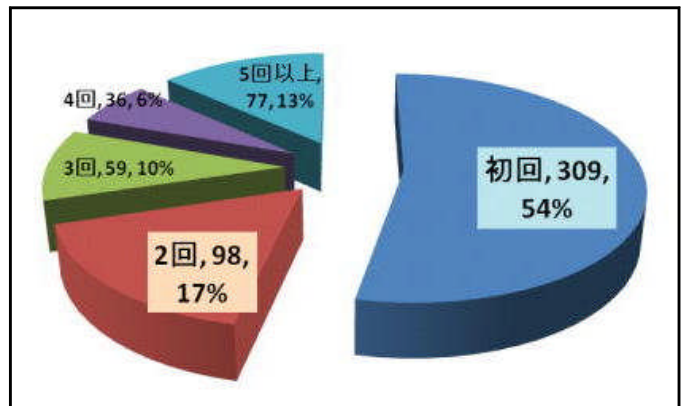
2 年齢・年代別・性別退院患者数

年齢は 13 歳～ 84 歳、平均年齢 40.2 歳であり、年齢層は昨年の 39 歳よりも若干年齢があがった。年代別では 20 歳代～ 40 歳代が多い。10 歳代は 61 人(10.5%)と前年度と同様である。70 歳以上は 27 人 (4.7%)と昨年よりも若干の増加であった。性別では女性が 2/3 を占める。年代別では 10 歳～ 30 歳代での女性比率が高い。



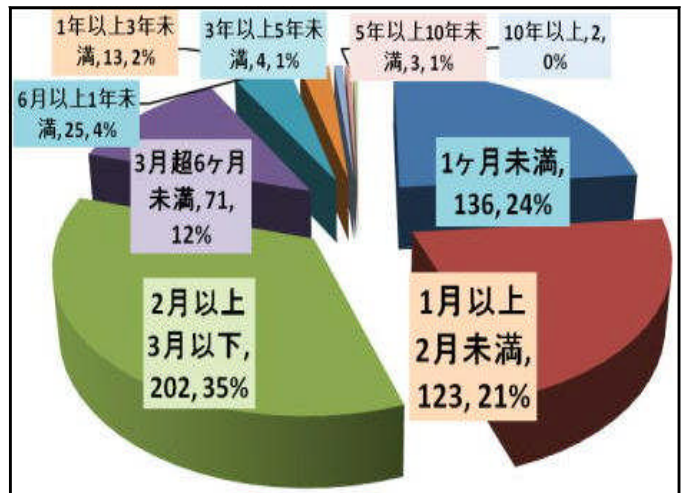
3 入院回数

1～19回、平均入院回数 2.5 回である。初回入院者は 309 人 (53.4%)である。再入院のうち、2回が 98 人 (16.9%)であった。4回が 36 人 (6.2%)、5回以上は 77 人 (13.3%)である。10 回以上の入院者は 19 人 (3.3%)であった。15 回以上の入院者は 4 人で統合失調症、双極性感情障害である。



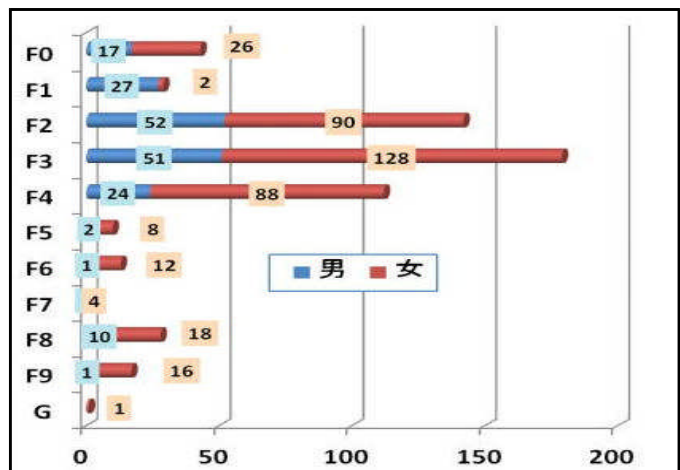
4 入院期間

2～6,058 日、平均 119.3 日である。期間別では 1ヶ月未満が 136 人 (23.5%)、1ヶ月以上 2ヶ月未満が 123 人 (21.2%)、2ヶ月以上 3ヶ月未満が 202 人 (34.9%)であった。3ヶ月未満の退院が 8 割、1年未満が 98.4 である。3年以上の入院期間があったのは 9 人で(表)、6 人は身体合併症治療での転院、3 人が在宅となった。



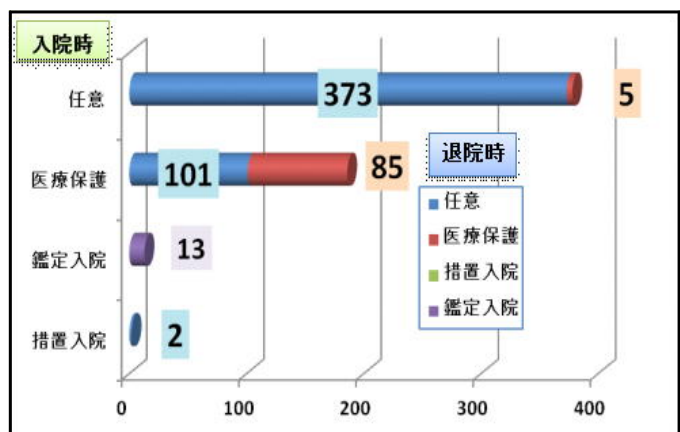
5 退院時診断

F3（気分障害）が最多で179人（30.9%）である。これは前年度と同様である。次いでF2（統合失調症圏）が142人（24.5%）、F4（神経症圏）は112人（19.3%）であった。F1（アルコール依存症等）は29人（5.0%）で女性は2人のみ。F6（パーソナリティ障害）13人（2.2%）と少ない。F5（摂食障害等）は10人（1.7%）と少ない。F0（認知症）は43人（7.4%）、F8（発達障害）は28人（4.8%）と増加している。当院はうつ病、統合失調症、神経症圏が多い病院である。



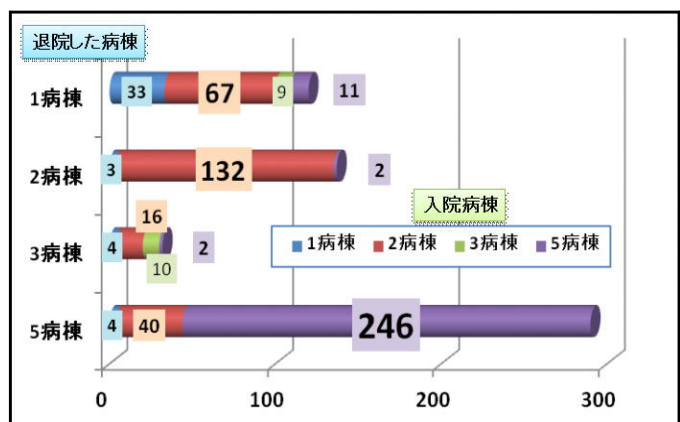
6 退院者の入院時および退院時の入院形態

入院時の入院形態は任意入院が378人（65.3%）を占め、186人（32.1%）が医療保護入院である。退院時に医療保護入院は90人（15.5%）である。医療保護入院での入院者の半数以上が任意で退院となっている。本人の主体的な治療意欲がないと病状の改善も得られない。極力、任意入院では治療が望ましい。措置入院者は2人のみである。鑑定入院が13人と多かった。



7 入院および退院した病棟

290人（50.1%）と半数は5病棟からの退院である。5病棟からの退院者の40人は2病棟入院後に5病棟に転棟して退院した。2病棟からの退院は137人（23.7%）であった。1病棟からも120人（20.7%）と2割以上が退院している。1病棟からの退院者は半数の67人は2病棟入院後の退院である。3病棟からは32人（5.5%）の退院のみである。



8 転帰

軽快退院が95%を占める。殆どが改善して退院しているのは大変喜ばしい。不変が13人（2.2%）、治療中断例が12人（2.0%）であった。退院後に外来に繋がるのは475人と3/4を占める。最近ではコロナだけではなく、Gが多くなっている。

退院状態	外来の有無		転入院	総計
	有	無		
軽快	452	86	9	538
不変	18	6	2	24
治療中断	10	7	3	17
総計	480	99	14	579

9 転医先

病診・病病連携を重要視している。五稜会病院単独では患者さんの治療は出来ない。基本的には紹介して頂いた病院・クリニックに診療情報提供書を作成して再び受診してもらうことにしている。他の医療機関への転入院は21人（3.5%）と昨年と同様であった。身体合併症を理由に転院した場合には、合併症治療後は当院に再入院している。

退院時満足度調査

平成 26 年度

1 対象

平成 26 年 1 月～ 12 月までの退院者 579 人中、退院時に満足度調査の回答が得られた 380 人(65.6%)を対象に分析を行った。回収率は前年度の 72.3 よりも下がっている。目標は 80%であるが、回収率は入院治療の満足度の高さの証明でもある。さらなる回収率向上を図りたい。3 病棟は退院も少ないが高い数字である。2 病棟の回収率が低いのはわかるとしても、1 病棟が 5 病棟に比べて回収率が低いのは改善の余地があると思われる。満足度調査の必要性を理解し、信頼性確保のためには回収率を上げる必要がある。

調査票の有無	退院した病棟				総計
	1病棟	2病棟	3病棟	5病棟	
有	86	50	27	217	380
%	71.7%	36.5%	84.4%	74.8%	65.6%
総計	120	137	32	290	579

調査対象からは認知症、脳器質性疾患、緊急の転院、入院 2 日以内を除く。

対象者の基礎データ

380 人

年齢 13 歳～ 80 歳 平均 40.9 歳

性別 男 = 121(31.8 %)

女 = 283(68.2 %)

入院期間 3～ 4,513 日 平均 111.9 日

入院回数 1～ 17 回 平均 2.4 回

初回 = 205 (53.9%)、2 回目 = 73 (19.2%)、

3 回目 = 39(10.3%)、4 回目 = 19 (5.0%)

5 回目以上 = 44 (11.6%)

診断別・入院形態

F3 (気分障害圏) が最多の 35.5 %を占める。F2 (統合失調症圏) は 22.9%、F4 (神経症圏) の 20.5%の順である。

入院時の入院形態は 7 割が任意入院で医療保護入院は 3 割弱である。措置入院者が 1 人であるが、退院時には任意入院で退院している。

F分類	男	女	総計	割合
F0	8	15	23	6.1%
F1	17	1	18	4.7%
F2	29	58	87	22.9%
F3	42	93	135	35.5%
F4	17	61	78	20.5%
F5		6	6	1.6%
F6	1	7	8	2.1%
F7	1	1	2	0.5%
F8	6	9	15	3.9%
F9		8	8	2.1%
総計	121	259	380	100.0%
	31.8%	68.2%	100.0%	

2 方法

1. 入院治療についての全体的満足度

CSQ-8J (Client Satisfaction Questionnaire)

2. 入院に際する説明、入院中の治療に対する説明

3. 医師・看護婦などのスタッフに対する評価

4. 入院生活の快適さ

5. 家族の評価 等の調査を行っている。

入院形態	退院形態		総計	割合
	任意	医療保護		
任意	265	2	267	70.3%
医療保護	75	37	112	29.3%
措置	1		1	0.3%
総計	341	39	380	100.0%

1	2	3	4
よくない 全くない 絶対ない	まあまあ そうでもない しない	よい だいたい する	とてもよい 大いによい 絶対する

3 結果

3-1 全体的満足度、スタッフ評価、環境等

次ページ表の数字の%は「良い」「大変良い」の両者を合計したものを表す。「効果的な対処」が最も高く、93.4 %が満足したと回答した。これは前年度と同様である。患者さんのニーズに合わせ、何が困っているのか、その対処法についてのプログラム内容が奏功していると思われる。

「7 全体的な満足度」は 83.9%で昨年度の 86.2%よりも若干減った。8 割を越えたのは、「2 望んだ治療か」「4 推薦するか」「8 治療に戻るか」である。最も低いのは「必要とした治療か」で 65.8

CSQ-8J	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	空白	総計
1治療の質	7	83	149	106	255	73.9%	35	380
2望んだ治療か	10	37	202	95	297	86.3%	36	380
3必要としたか	8	108	152	71	223	65.8%	41	380
4推薦するか	3	41	231	62	293	86.9%	43	380
5時間をかけた援助	16	55	169	102	271	79.2%	38	380
6効果的な対処	6	16	180	130	310	93.4%	48	380
7全体の満足	5	50	186	101	287	83.9%	38	380
8治療に戻るか	12	50	203	63	266	81.1%	52	380
スタッフ評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	空白	総計
9事務員の応対	8	81	165	88	253	74.0%	38	380
10看護婦	7	52	122	159	281	82.6%	40	380
11医師	7	69	131	132	263	77.6%	41	380
12他のスタッフ	3	42	134	160	294	86.7%	41	380
説明・環境等	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	空白	総計
13入院の説明	9	24	174	124	298	90.0%	49	380
14入院中の説明	8	34	171	116	287	87.2%	51	380
15入院生活の快適さ	20	119	119	82	201	59.1%	40	380
16a病室の広さ	15	56	233	37	270	79.2%	39	380
16b廊下幅	19	56	222	43	265	77.9%	40	380
16cデイルーム	30	72	187	48	235	69.7%	43	380
16d作業療法室	62	98	160	16	176	52.4%	44	380
16e壁の色	5	81	210	40	250	74.4%	44	380
16f緑の多さ	33	118	135	50	185	55.1%	44	380
16g臭い	21	75	180	62	242	71.6%	42	380
16h清潔度	8	59	193	79	272	80.2%	41	380
17医療費	21	78	181	18	199	66.8%	82	380
家族の評価	良くない	まあまあ	良い	大変良い	良い以上	割合	空白	総計
21入院説明	6	14	92	152	244	92.4%	116	380
22入院中の説明	6	34	117	103	220	84.6%	120	380
23事務員	5	67	134	58	192	72.7%	116	380
24看護婦	1	39	122	102	224	84.8%	116	380
25医師	3	43	121	98	219	82.6%	115	380
26他のスタッフ	1	27	124	100	224	88.9%	128	380
27医療費	10	57	167	14	181	73.0%	132	380
28全体の満足	5	18	149	89	238	91.2%	119	380

%と昨年度と同様であった。精神科には入院したくないとの思いが当然あるので、低い数字になるのかもしれない。精神科医療への期待度が高いとどうしても不満と答える方が増えてしまう。入院時や入院中の説明には9割近くの方が満足していると回答している。作業療法室の満足度は高いものではない。スペース的には大きく広げることが出来ないが、新しい病棟が出来て上がったとも思えない。二期工事が完成して多目的ホールが出来れば変わるかもしれない。

職種別では医師への満足度が77.6%、看護師が82.6%であった。いつも高い満足度を誇る他のスタッフ（PSW・心理士・作業療法士・薬剤師）への満足度が86.7%であった。事務員は74.0%と前年度の72.8%よりもあがり、健闘している。また、当然のごとく医療費のことなどでの不満が多い。

家族の「全体的な満足度」は91.2%と高い値になっている。患者自身だけでなく家族の満足度を得ることも精神科では重要である。

3-2 「全体的満足度」の「とても不満」の回答者

「全体的満足度」で「とても不満」と回答したのは5人。平成25年度は9人、平成24年度は16人であったから減っている。F6が退院者数の割には多いか。入院形態では任意入院が4人である。決して医療保護入院で入院したからといって満足度が悪いとはいえない。「とても不満」と回答していても4人は当院に通院している。任意入院者が多いのは、入院治療の期待度の表れであろうか。本人が不満と答えていても家族は3人中2人は「良い以上」の満足度を示している。

医師に対して、とても不満と回答したのは7人である。5人が5病棟からの退院である。家族は3人中2人は「良い以上」の満足度を示している。転院は1人のみとなっている。30代女性は、医師への不満がある一方、「担当看護師さんが本当に良い人大好きでした。初めての入院、そしてそれが神経科・・・不安になったり、泣いたり、死にたいってなったり・・・そんな3ヶ月を乗り越えて頑張れたのは、担当看護師さんがいてくれたからだと思っています。今日は出勤してらんだって顔を見るだけでほっとしたりもしました。」とのコメントを寄せてくれている。

また、家族がとても不満と回答したのは5人である。しかし、患者自身は4人中2人は満足している。不満ではあるが、外来には来ており、期待度の表れかと考えている。

全体満足度の「とても不満」回答者

年代	性	入院期間	回数	F分類	入棟	退棟	入院形態	退院形態	外来	デイケア	転院	7全体の満足	28全体の満足	CSQ-8J
50歳代	女	10ヶ月	1	F2	2病棟	3病棟	措置	任意	有	無	無	1	3	11
50歳代	女	1ヶ月	6	F2	5病棟	5病棟	任意	任意	有	無	無	1		8
30歳代	男	1ヶ月	2	F6	5病棟	5病棟	任意	任意	有	無	無	1	2	13
30歳代	女	2ヶ月	1	F6	2病棟	5病棟	任意	任意	有	有	無	1	3	9
40歳代	女	1ヶ月	1	F3	5病棟	5病棟	任意	任意	無	無	外来	1		11

医師への「とても不満」回答者

年代	性	入院期間	回数	F分類	入棟	退棟	入院形態	退院形態	外来	デイケア	転院	7全体の満足	28全体の満足	CSQ-8J
30歳代	女	3ヶ月	1	F3	5病棟	5病棟	任意	任意	無	無	外来	3		25
40歳代	男	1ヶ月	3	F0	2病棟	2病棟	任意	任意	有	無	無	2		18
50歳代	女	10ヶ月	1	F2	2病棟	3病棟	措置	任意	有	無	無	1	3	11
50歳代	女	1ヶ月	6	F2	5病棟	5病棟	任意	任意	有	無	無	1		8
30歳代	男	1ヶ月	2	F6	5病棟	5病棟	任意	任意	有	無	無	1	2	13
30歳代	女	2ヶ月	1	F6	2病棟	5病棟	任意	任意	有	有	無	1	3	9
40歳代	女	1ヶ月	1	F3	5病棟	5病棟	任意	任意	無	無	外来	1		11

家族の全体満足度の「とても不満」回答者

年代	性	入院期間	回数	F分類	入棟	退棟	入院形態	退院形態	外来	デイケア	転院	7全体の満足	28全体の満足	CSQ-8J
20歳代	男	1ヶ月	1	F2	2病棟	5病棟	医療保護	任意	有	無	無	3	1	20
60歳代	女	3ヶ月	1	F0	2病棟	2病棟	医療保護	医療保護	有	無	無		1	
40歳代	男	3ヶ月	1	F1	2病棟	1病棟	任意	任意	有	無	無	2	1	16
30歳代	女	3ヶ月	1	F2	2病棟	1病棟	医療保護	任意	有	有	無	2	1	20
10歳代	女	1ヶ月	1	F5	5病棟	5病棟	任意	任意	有	無	無	3	1	18

満足度調査の目的

1 顧客の声を正確に把握する

患者に直接聞くことで本当の満足度調査ができ、ニーズにあった調査票を作成することにより定量データもとることができる。

2 サービスレベル向上策の実施

患者の声の中で最も評価された点、課題だと思われる点を優先順位を緊急度、重要度を加味して整理する。その上で「すぐできる対策」「中長期にわたって実施すること」を決めて実施する。

3 新たなニーズ、サービスの発掘

患者の声から新たなニーズを発見することも可能である。日々のサポートに追われ気がつかなかったニーズやサービスの芽を発見できる。

「満足度調査」は患者さんから「どのような評価を受けているか」という現状把握をし、患者さんの視点に立って、「院内改善活動に取り組むための問題点および課題」を明確化し、改善点を浮き彫りにすることが出来ます。

臨床治験について

治験とは国から薬として承認を受けるために行う臨床試験のことです。

治験では、新しく開発された薬の人での有効性（効き目）や安全性（副作用）などを確認します。現在、世界中で数多くの薬が使われていますが未だに有効な治療薬がない病気も多くあります。これらの病気に対しては効果のある新しい薬の開発が必要です。そのため世界中で新しい医薬品の開発を目指して治験が行われています。当院では積極的に治験に取り組み、新たな薬剤開発に協力しています。

治験審査委員会（IRB）は毎月開催し、治験内容について審議しています。

IRB審議内容紹介

開催日時：西暦 2014 年 11 月 18 日（火）12：00 ～

場 所：医療法人社団五稜会病院 医局

臨床治験

1. 大塚製薬株式会社より依頼

- * 「アリピプラゾールの統合失調症の小児患者を対象とした短期投与試験（031 - 09 - 003）」
- * 「アリピプラゾールの統合失調症の小児患者を対象とした長期継続投与試験（031 - 09 - 004）」
- * 「統合失調症患者を対象としたアリピプラゾール IM テポ 注射剤（OPC - 14597IMD）の三角筋内への反復投与による薬物動態及び安全性を検討する非盲検、多施設共同試験（臨床薬理試験）【031 - 13 - 005】」

審議事項：【IM テポ 三角筋】安全性情報

【小児】治験終了報告

（治験実施施設：五稜会病院、札幌太田病院）

- * 「OPC - 34712 の統合失調症患者を対象とした用量検討試験（331 - 10 - 002）」
- * 「OPC - 34712 の統合失調症患者を対象とした長期投与試験（331 - 10 - 003）」

審議・報告事項：【用量】安全性情報

【五稜会／用量】被験者募集（WEB）広告

【五稜会／長期】治験終了報告

（治験実施施設：五稜会病院、札幌こぶし CL、札幌ひいらぎ CL）

- * 「大うつ病性障害患者を対象とした ASC - 01 の有効性及び安全性を評価する多施設共同、無作為化、二重盲検試験」

審議事項：【共通】治験実施状況報告

2. 大日本住友製薬株式会社より依頼（治験実施施設：五稜会病院）

- * 「ラシトンのリチウムまたはバルプロ酸との併用による双極 I 型障害患者を対象とした気分エピソードの再発・再燃に対するランダム化二重盲検プラセボ対照可変用量並行群間比較試験【D1050296 試験】」

- * 「ラシトンのリチウムまたはバルプロ酸併用療法による双極 I 型障害患者を対象とした

多施設非盲検可変用量継続試験【D1050308 試験】（治験実施施設：札幌佐藤病院、村上病院）

- * 「SM - 13496 の双極 I 型障害の大うつ病エピソードの患者を対象としたランダム化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験【D1002001】」

- * 「SM - 13496 の双極 I 型障害患者を対象とした長期投与試験【D1002002】」

審議事項：【共通】安全性情報 【五稜会／比較試験】治験期間の延長

3. Meiji seika ファルマ株式会社（治験実施施設：五稜会病院、ファミリーメンタル CL）

- * 「SME3110（フルボキサミン塩酸）の小児強迫性障害患者を対象とした第Ⅲ相臨床試験」

審議事項：治験実施計画書改訂、治験薬概要書改訂、同意説明文書改訂

4. 第一三共製薬株式会社より依頼（治験実施施設：札幌佐藤病院、手稲脳神経外科 CL、小樽セントラル CL）

- * 「SUN Y7017（マンチン塩酸塩）のドネペジル塩酸塩併用時における中等度及び高度アルツハイマー型認知症に対する製造販売後臨床試験」

審議事項：安全性情報